

■取材を行ったデジタルチューナー 6モデル

	DTV-S110	PRD-BT105-P00	DT630	DTH11	HVTR-BTL	DTC110
ブランド	BUFFALO	PRODIA	MASPRO	UNIDEN	I-O DATA	YAGI
価格	¥OPEN	¥OPEN	¥OPEN	¥OPEN	¥15,330	¥OPEN
搭載チューナー	地上	地上	地上	地上	地上/BS	地上/BS/CS
EPG	24時間	8日間	24時間	8日間	8日間	8日間
CATVバススルー	○	○	○	○	○	○
拡大表示機能	○	○	○	○	○	○
アナログHD出力	×	×	×	×	○	○
データ放送	×	×	×	×	×	○
双方向サービス	×	×	×	×	×	○
字幕放送	○	○	○	○	○	○
電源	ACアダプター	ACアダプター	ACコード(メガネ型)	ACアダプター	ACアダプター	ACコード(メガネ型)
消費電力(電源「切」時)	4W(非公表)	3.0W(1.5W)	3.3W(0.2W)	3.0W(非公表)	9.6W(0.5W)	13W(0.3W)
映像出力端子	HDMI	-	-	-	1	1
	D4端子	-	-	-	1	1
	アナログRGB	-	-	-	1(D-Sub15pin)	-
	S端子	-	-	-	1	1
音声出力端子	コンポジット	1	1	1	1	1
	光デジタル	-	-	-	-	1
	ステレオLR	1	1	1	1	2
外形寸法	幅	110mm	117mm	141mm	120mm	236mm
	高さ	24mm	38mm	38mm	30mm	53mm
	奥行	103mm	91.3mm	96mm	150mm	152mm
質量	165g	140g	230g	190g	560g	750g
問い合わせ先	☎050-3163-1825	☎06-6633-3500	☎0570-091119	☎0120-20-20-70	☎03-3254-1076	☎048-687-8198

**さよならアナログ放送！  
こんにちはデジタル放送！！**

2011年は日本のテレビ放送の歴史上、忘れられない年になる。いわずと知れたテレビのアナログ放送が終る年だからである。アナログ放送からデジタル放送への切り替えは段階的に行われてきたが、アナログ放送の停波でテレビ放送は(一部地域を除き)デジタル放送へ完全に移行することになる。日本でテレビ放送が始まったのは1953年のことであり、以来58年間、大役を全うしたアナログ放送はバトンをデジタル放送へ渡す。2011年7月24日、アナログ放送は終焉のときを迎えるのだ。

テレビ放送のデジタル化は、テレビの歴史のみならず、産業や経済などあらゆる分野に影響を与えた。我々オーディオ・ビジュアルファンにとっては、何といってもハイビジョンが身近になったことがデジタル化における最大の恩恵である。アナログのハイビジョン放送はMUSE E<sub>1</sub>という方式でデータ圧縮をおこなっていたものの、まだその情報量は膨大で、試聴には

MUSE専用のエンコーダーを必要とした上に、録画にはWVHS<sup>\*</sup>2という特殊なフォーマットが必要だったからだ。現在のデジタルハイビジョン録画の手軽さと比べると雲泥の差だったわけだ。

**地デジチューナーがあればアナログTVだって延命！**

概ねメリットが大きいデジタル放送なのだが、最大の問題がアナログ受信機器に互換性が全くないことだ。この事実は既に周知されているが、要するに、デジタル放送を観たり録画したりするには、デジタル放送に対応したテレビやチューナー、レコーダーが(時にアンテナも)必須となる。裏を返すと、アナログ放送終了と同時に、アナログテレビはテレビとしての機能を失うのだ。今年の7月はいったい何台のアナログテレビがリサイクルされるのだろうか。

しかし、アナログテレビをリサイクルに出さずに延命する方法がある。それは外部デジタルチューナーをビデオ入力に接続して使う方法だ。さすがにビデオ入力のないアナログテレビの延命は難しいが、1990年代

**市川流**  
**AV用語の基礎知識**

**\*1 MUSE**  
MUSEとはMultiple Sub Nyquist Sampling Encoding systemの通称。アナログハイビジョンの圧縮伝送方式のことである。放送ではMUSE方式による実験放送が1989年から開始され、1991年からはBS9チャンネルとして実用試験放送が開始された。また、市販ソフトとしてMUSE方式のレーザーディスクも発売された。放送ソフトのいずれも再生には外付けのデコーダーが必要であった。アナログ華やかなりし時のあだ花である。

**\*2 WVHS**  
アナログハイビジョンの録画が可能でVHSの発展形である。対応デッキは世界初の家庭用ハイビジョンVTRとして、1993年にビクターから発売されたHRW1と、その後継機のHRW5が有名だ。特徴はMUSEのような圧縮方式ではなく、非圧縮のままのハイビジョン信号を記録する方式にある。ただ、放送は圧縮方式のMUSEしかなかったため、そのポテンシャルを十分に發揮できずに規格そのものが下火となってしまった。なお、HRW1の価格は62万円であった。



# 市川二朗の しあわせ劇場

NIRO ICHIKAWA'S HAPPY THEATER

第98回 あと2回!

**今月のお題** **ネバーギブアップ!! アナログティービー! 単体チューナーでデジタル放送時代に備える**

「アナログ放送の停波」までいよいよ2カ月あまりとなりました。あと少して、今あるアナログTVは、ず——と「ザーザーTV」になってしまうわけです。ああ。このTVもいよいよお役目御免かしら? とお考えの奥さま。何も薄いTVに買い替えることだけが地デジ化・エコロジーというわけではありませんよ。専用チューナーをアナログTVに挿すだけで、、、アライヤだ! 地デジ化完了じゃないの!?

●チューナー その4  
UNIDEN  
DTH11  
¥OPEN



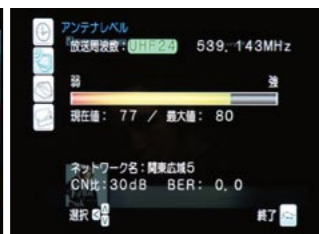
▲番組情報表示



▲番組表



▲メニュー

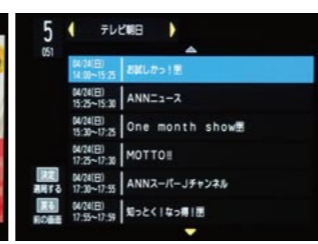


▲アンテナ表示

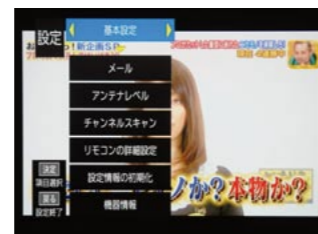
●チューナー その3  
MASPRO  
DT630  
¥OPEN



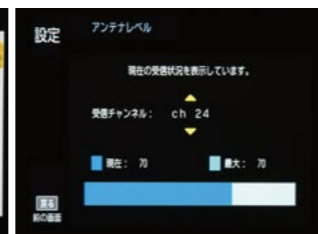
▲番組情報表示



▲番組表



▲メニュー

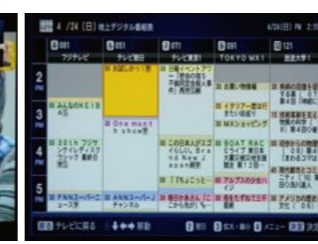


▲アンテナ表示

●チューナー その2  
PIXELA  
PRODIA PRD-  
BT105-P00  
¥OPEN



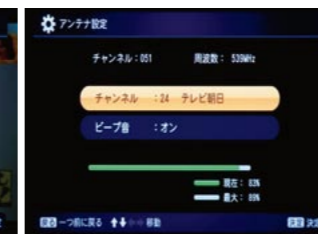
▲番組情報表示



▲番組表



▲メニュー



▲アンテナ表示

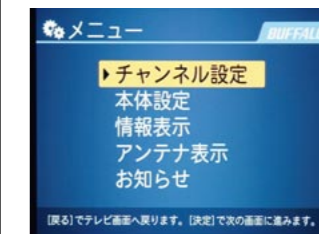
●チューナー その1  
BUFFALO  
DTV-S110  
¥OPEN



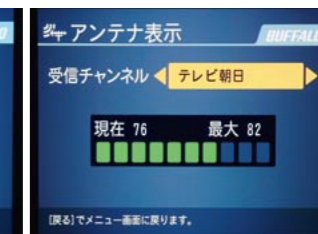
▲番組情報表示



▲番組表



▲メニュー



▲アンテナ表示

プロディアのPRD-BT105-P00は、大きめの石鹸箱のような角のない外観のシンブルチューナーだ。フロントパネルは小さな電源ボタンとイン

ディテールが素晴らしい。この価格なら文句なしのハイIC / Pである。

●チューナーその2  
PRDIA  
PRD-BT105-P00

集めたテスト機は全部で6モデル。価格はオープンプライスが多いのだが、最も安いモデルの「価格・com」での最安値は4千円を切っている。最も高価なモデルでも2万円台だ。廉価なモデルであれば、たった4〜5千円の投資でアナログテレビをデジタル化できるのである。

また、高価な価格帯のモデルはハイビジョン出力を装備している。アナログ出力を装備している。アナログ出力を装備しているハイビジョン出力を装備している。アナログ出力を装備している。

設定メニューは項目が絞り込まれていて、迷うことなく設定ができる。また音声出力設定では、ステレオとモノラルのどちらかを選ぶことができた。地デジならではの特徴である番組表は、本機の場合、24時間分が表示される。受信感度はごく普通だが、小型の室内アンテナでも送信出力の低いローカル局（MXテレビ）以外はほぼ問題なく受信ができた。

画質はクリアで力強く輪郭線がクッキリしている。アナログとの比較では鮮鋭感と透明感は明らかに優れている。発色はわずかにアナログのほうがカラフルで色乗りがいい印象だ。本機は低価格でありながら使い勝手がよく、明快な画質も好ましい。

この価格なら文句なしのハイIC / Pである。

以降の機種であれば、大抵ビデオ入力があるのでこの方法で延長が可能だ。

●チューナーその3  
MASPRO  
DT630

マズプロのDT630は白い

ジケーターがあるのみ。上面にブランドロゴが大きく彫り込まれているのが、デザイン上の唯一の自己主張だ。電源はACアダプター式で、入出力端子は最小限の構成となっている。リモコンはやや小ぶりだがボタン数が少なく使いやすい。視聴時の消費電力は2ワット、待機時はワットメーターの表示が0になる。1ワット未満であることは確かだ。

設定メニューは文字が小さめで条件が細かく表示される。アンテナレベル確認画面では、レベルの強弱に応じてビープ音を鳴らすことができる。アンテナ設置の際には便利だ。番組表は8日間表示と最新のテレビ並み。受信感度は普通でローカル局以外は室内アンテナでほぼ受信できた。

視聴は実使用を想定し、14インチのアナログブラウン管テレビ、ソニーのKV14GP1との組み合わせをメインとした。また、ハイビジョン出力ができるモデルは、KV14GP1に加えソニーのKD136HD800と組み合わせるとハイビジョンの画質も確認した。この2つのブラウン管テレビはいずれも僕の手持ちである。特にKD136HD800は今や我が家の家宝といえる存在だ。

今回のテストでは、受信感度を比較する意味で3種類の室内アンテナを用意し、ランダムに組み合わせ受信用を確認した。また、節電を考えると、いらない昨今なので、簡易ワットメーター<sup>※3</sup>で消費電力の確認もおこなった。

テスト結果を視聴順に紹介する。まずはバッファローのDTV-S110である。外観は小型でデザインはそつけない箱型だが、フロントパネルに電源ボタンとチャンネル切り替えボタンを装備している。こういったシンブルチューナーはリモコンがないとチャンネル切り替えさえできないモデルもあるが、本機はリモコンがなくても本体のボタンで基本的な操作が可能だ。映像出力は同軸端子によるスタンダード画質のみである。

電源はACアダプター式。リモコンは操作キータンが大きいので使いやすい。視聴時の消費電力は3ワット。待機時は2ワットだったが、スペックでは0.1ワットとなっている。取材時は恐らくEPG<sup>※4</sup>の取得をおこなった。

●チューナーその1  
BUFFALO  
DTV-S110

市川流  
AV用語の基礎知識

消費電力計のことである。エコと節電の観点から、最近では家庭でも手軽に消費電力を計ることができるようになった。今回使用したのもそういった簡易式のものである。かんたんなチェックには十分な精度があるが、今回のような微小な消費電力のチェックには、残念ながら表示桁数が桁足りなかった。

※4 EPG  
Electronic Program Guideの略。日本語では電子番組表と呼ばれる。テレビやレコーダーなど、テレビ放送を受信する機器固有の機能として表示される番組表をこのように呼ぶ。番組表のデータはデジタル放送では放送波とともに送信されるが、アナログ放送ではGガイドやADAMSといった民間の送信サービスを利用している。





取材では八木アンテナの「DUCA」と「FLEMO」、そしてマスプロの「マ スクリーン」の3つの室内アンテナを使いました



日本の放送を支えてきたアナログ放送は7月24日でサヨナライオン。そしてデジタル放送、これからもお世話になりマウス



世界初のアナログハイビジョン録画機・W-VHSデッキ「HR-W1」。W-VHSカセットは180分で¥5,900、写真のMUSEデコーダー内蔵ハイビジョンTV「HV-32Z3」は¥850,000。いい時代になったものです



ACアダプターも微妙に異なる。左からアイ・オー・データ、ピクセラ、ユニデン、そしてバッファロー。なお、八木アンテナとマスプロはめがね型のACコードだ



6モデルを積み上げ大きさを比較。下から八木アンテナ、アイ・オー・データ、ユニデン、マスプロ、バッファロー、そしてピクセラ

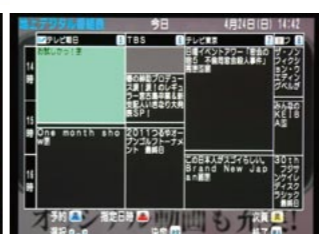


リモコンも各社各様だ。左からマスプロ、ユニデン、ピクセラ、バッファロー、八木アンテナ、そしてアイ・オー・データ

●チューナー その6  
YAGI  
DTC110  
¥OPEN



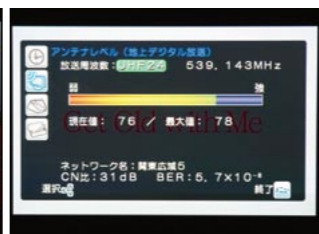
▲番組情報表示



▲番組表



▲メニュー

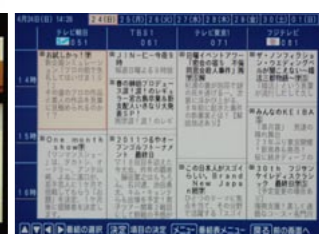


▲アンテナ表示

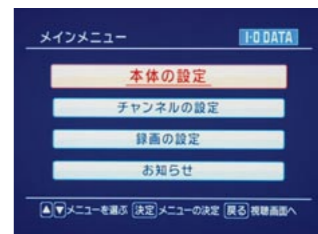
●チューナー その5  
I-O DATA  
HVTR-BTL  
¥15,330



▲番組情報表示



▲番組表



▲メニュー



▲アンテナ表示

設定メニューのグラフィックはユニデンとデザインが共通だが、内容は少し異なっている。番組表はもちろん8日間表示だ。受信感度は良好。室内アンテナでローカル局がノイズ混じりだが、かろうじて受信できた。画質は本質的なクオリティが高く、ハイビジョン出力ではレコーダーの内蔵チューナーと互角に渡り合う。14インチではや

つや消しのキャビネットが外観の特徴だ。フロントパネルにはインジケーターがあるので電源ボタンすらない。リモコンが大方不明になると全く操作不能におちいる。電源はACアダプターではなく、通常のメガネ型の電源ソケットがついている。電源が内部にあるにも関わらず本体は小型、軽量だ。リモコンは小型だが操作感は悪くない。視聴時の消費電力は2ワット、待機時は1ワット未満。

設定メニューは分かりやすく、迷うことなく設定ができる。番組表は24時間分だが情報が整理されているので使いやすい。受信感度は特に優秀で、室内アンテナでローカル局が受信できた。受信レベルはギリギリではあるが、ノイズなく受信できたのは本機のみだ。

画質はキリッと明快な輪郭線とすっきりした発色の特徴。アナログの繊細感とは対照的だが14インチの小さな画面には好適な映像だ。

●チューナーその4  
UNIDEN  
DTH11  
ユニデンのDTH11は薄型

設定メニューはよくできていて、感覚的に目的の項目にたどり着くことができる。アンテナレベル確認画面では、放送周波数やC/N比<sup>※5</sup>などテクニカルな数字まで表示されるのはすごい。番組表は8日間表示である。受信感度は標準的で、室内アンテナでローカル局の受信はできなかった。

画質は透明感があり肌色や中間色が瑞々しい。発色はやや淡白な印象でアナログとは対照的だ。

やおとなしいが、解像度の高さは十分感じられる。

シンプル地デジチューナーは専門誌で取り上げられることは少ないように思う。恐らく、クオリティを云々するものではない、と思われるのだろう。確かにそうかも知れないが、実は意外と画質や受信感度に差があることが分かった。また、設定メニューもバラエティーに富んでいて、なかなか興味深い結果となった。総論として、シンプルチューナーは小型テレビとの組み合わせを意識した、クリアでメリハリのある傾向。本格派チューナーは画質も本格的で大型のハイビジョンテレビとの組み合わせが相応しい印象である。アナログとの画質比較は概ねデジタルに軍配が上がる印象だ。しかし、曖昧な中に微妙な階調表現があるのがアナログの良さだと再認識した。

これらの外付け地デジチューナーを使ってアナログテレビを使い続けることは、決してネガティブなことではない。むしろ、ブラウン管の潜在能力を発揮させることにもなる。デジタル時代もアナログテレビでいこう！

●チューナーその5  
I-O DATA  
HVTR-BTL  
アイ・オー・データのHVTR-BTLは、これまでのシンプルチューナーとは一線を画す

設定メニューは多機能な割には分かりやすくできている。番組表は8日間表示。USB HDDをつないだ際の予約録画機能と連動している。受信感度は良好で、不安定さが残るもののローカル局が受信できた。

14インチでの画質は解像度が高く強調感の少ない本格派。36インチでのハイビジョンの画質は端正で階調が非常にめめらかだ。シンプルチューナーとは画質も一線を画す印象である。

上位モデルである。といっても、価格は14600円なのでオーディオ・ビジュアル機器としては廉価な部類だ。シンプルチューナーとの最も大きな違いは地デジだけではなくBSデジタルも受信できること、別売のUSB HDD<sup>※6</sup>をつないで番組録画が可能となることだ。もちろんハイビジョン出力（D端子とHDMI）を装備している。さらにアナログRGB出力も装備している。パソコンモニターとの組み合わせも可能だ。視聴時の消費電力は7ワットとさすがにシンプルチューナーよりは大きい。待機時は6ワットに下がる。

**市川流**  
**AV用語の基礎知識**

**\*5 C/N比**  
C / NはCarrier to Noiseのこと。電気用語であるS/N比と同じ意味の電波の場合の用語である。このC/N比はCarrierは搬送波のことを指す。電波をアンテナで受信したとき、テレビの信号が含まれている搬送波と、それ以外のノイズ成分の比率がC/N比なのである。すなわちC/N比が高いほど受信状態が良好だといえる。

**\*6 USB HDD**  
USB接続による外付けハードディスクのことである。最近パソコンだけではなく、オーディオ・ビジュアル機器やゲーム機などでもUSB HDDの需要が高まっている。USB HDDは、価格が加速的に安くなっている。僕は1年ほど前に1.5TBのものを買ったが、直近の相場では7〜8千円に値を下げている。